

【ザリガニ釣り、大好き！】3年保育3歳児 9月中旬

2学期になり、幼児はザリガニが釣れるようになったり、友達と一緒に遊んだりとよりザリガニ釣りを楽しんで遊ぶようになっていきます。「先生、見て！」「〇匹釣れたよ」と教師や友達に伝えようとしたり、「大きいザリガニも釣りたい」と自分なりに目標をもって遊んだりしています。

幼児期に育みたい「10の項目」を手掛かりに、幼児の学びを捉えてみました。

健康な心と体

- ・「ザリガニ釣りがしたい！」「ザリガニを自分で釣りたい」という思いをもってザリガニ釣りを楽しむ

自立心

- ・一人でエサをつけたり、釣り竿やバケツなどを出したりと遊びに必要な物を自分で準備をする
- ・ザリガニが自分の竿に来るまで静かに待つことができる
- ・一人でザリガニが釣れた時に達成感、満足感を感じる

道徳性・規範意識の芽生え

- ・教師に手伝ってもらいながら、竿に糸を巻き付けたり、分類してカゴに入れたりと約束を守って片付けをしようとする

豊かな感性と表現

- ・ザリガニを見たり、触れたりして心を動かし、自分の思いをため込む（表現の基礎）
- ・教師を呼びに来たり、ザリガニを教師の所に持って行ったりとザリガニが釣れて嬉しい気持ちを笑顔で表現する

数量や図形、標識や文字などの関心・感覚

- ・自分が釣ったザリガニの数を数えようとする、教師と一緒に数える
- ・大きい、小さいと大きさを感じる
- ・表示を見て、片付けをする

自然との関わり・生命尊重

- ・ザリガニの動きに興味をもち、親しみの気持ちをもって関わろうとする
- ・ザリガニの背中をもつとはさみにはさまれないことが分かり、触ってみよう、つかんでみようとする
- ・自分が釣ったザリガニに「かわいいね」と愛着をもつ

言葉による伝え合い

- ・「〇匹釣れたよ」と教師に伝えようとしたり、「ここにザリガニがいるよ」「こっちは大きいよ」などと一緒にザリガニ釣りをしている友達と話をしたりする

思考力の芽生え

- ・バケツの中にいるザリガニが葉っぱや花をはさみで遊んでいる姿を見た。「この葉っぱが好きなかな？」と考え、エサではなく、釣り竿に葉っぱをつけてザリガニを釣ろうとする

* 教師の援助・願い *

- ・様々な生き物とたくさん触れ合って遊んでほしいと思います。
- ・頑張ってザリガニを釣ろうとする姿を励ましたり、少し手を添え釣ることができるように支えたりしています。
- ・ザリガニが釣れた嬉しい気持ちに共感したり、認めたりし自分が頑張れた達成感やザリガニをやっと釣ることができた満足感を感じられるようにしています。
- ・「ザリガニ大きいね」「はさみがすごいね」「ざらざらしている」など、自分の思いを今後、表出していたり、思いをため込んだりできるように実体験を積み重ねます。そこでは、教師が言葉を足して伝えたり、幼児の思いに共感したりしています。
- ・同じ遊びで遊ぶことが楽しいなと感じられるように教師が仲介役となり、幼児同士を繋げています。

* 幼児の育ち・学び *

- ・1学期もザリガニ釣りをしようとしていた。しかし、長時間（ザリガニがエサを食べるまで）待つことができず、1匹も釣ることができないことから面白くなり遊びの継続が難しかった。今では、ザリガニが来るまで待つことができたり、タイミングよく竿をあげることが分かったりとザリガニをたくさん釣ることができるようになり、ザリガニ釣りの楽しさを感じられるようになっていく。
- ・ザリガニが釣れるようになったことで「静かにしないと釣れない」「背中を持ったら触れる」「好きな葉っぱや花がある」など、ザリガニについて知ることができた。
- ・友達と一緒に遊ぶことが楽しくなってきた。「一緒にザリガニ釣りしよう」と誘いあったり、「ここにいるよ」「こっちに大きいザリガニが隠れている」と教え合ったりして遊んでいる。
- ・年中児や年長児が大きなザリガニを釣っている姿を見て「自分も釣りたい！」と目的をもって遊ぶようになっていく。